

那須塩原市議会 フロンティアなすの 行政視察報告書



視察機関 平成29年10月2日（月）～4日（水）

- | | |
|------|---------------|
| 視察日 | 平成29年10月2日（月） |
| 視察地 | 北海道 美瑛町 |
| 視察内容 | 観光振興の取り組みについて |

視察日	平成29年10月2日（月）
視察地	北海道 美瑛町
視察内容	美瑛選果の取り組みについて
- | | |
|------|--------------------|
| 視察日 | 平成29年10月3日（火） |
| 視察地 | 北海道 札幌市 |
| 視察内容 | 北海道さっぽろ食と観光情報館について |
- | | |
|------|---------------|
| 視察日 | 平成29年10月4日（水） |
| 視察地 | 北海道 札幌市 |
| 視察内容 | 資生館小学校について |

那須塩原市議会
フロンティアなすの 齋藤寿一 小島耕一

視察日 平成29年10月2日(月)
視察地 北海道 美瑛町役場
テーマ 観光振興の取り組み
案内者 美瑛町議会事務局長 新村猛氏ほか



美瑛町の概要

面積 676 Km² (山林73%、耕地9%)

世帯数4771 人口 10,238人

テレビCMに写真家前田信三氏などの欧州的な田園風景が使用され、知られ始める。

昭和62年に風景写真家前田信三氏の写真ギャラリー「拓真館」の開設を機に、「丘のまちびえい」として注目を集め、今では170万人の観光客が訪れるようになっている。

滞在型観光に向けた取り組み

観光客は通過型で美瑛町の経済発展への貢献が少なかったことから、平成17年に宿泊体験施設「ふれあい館ラブニール」を新設し、平成18年には、美瑛軟石でできた農業用倉庫を改装し、道の駅「びえい丘のくら」をオープンした。



美瑛町の魅力的な観光施設

- ・丘のまち交流館 bi.yell (ビ. エール)
中心街にあった古い建物をリノベーションした施設、ギャラリーで専門家の写真から小中学生、保育園生の作品まで鑑賞でき、子供の遊びコーナー、カフェバーを備え、市民と観光客がともに憩える施設。

- ・四季の情報館
役場庁舎に併設された美瑛町のシンボル。高さは32.4mで丘のまちのパノラマを展望できる。

- ・拓真館
風景写真家、故前田真三氏のギャラリー。廃校になった小学校を活用。周囲はなだらかな畑の農場、校庭は花壇。



- ・三愛の丘展望公園、新栄の丘展望公園、北西の丘展望公園

小高い丘の公園、ラベンダーを植えるなど、大雪山を遠景に丘のまちを見晴らせる。

・四季の丘、ぜるぶの丘

ラベンダーやひまわり、ポピーなどのお花畑を周遊できる民間の施設。

・青い池、白ひげの滝

びえい白金温泉のふもとに広がる自然景観。アップル社の表紙に写真が使用されたことから、世界中から観光客が集まっている。



・美瑛選果

美瑛農協が開設したレストラン、直売所で、地元農産物を基本にした食をピーアールする施設。農産物や加工品などの直売とレストラン、視察調査を実施。

特産物・土産品・グルメ

びえいカレーうどん、びえいサイダー、美瑛豚、美瑛牛乳、美瑛ゆめちから食パン、美瑛ラスク、とうきび人形など地元の農産物や資源を基盤として土産品やグルメを開発している。

観光客を集めるイベント

丘のまちびえいヘルシーマラソン、那智美瑛火祭り（十勝岳噴火鎮静化を祈る）、びえいどかんと農業まつり、丘のまちびえいセンチューリーライド（サイクリングの祭り）、丘のまちびえい宮様国際スキーマラソン（ノルディ

ックのスキー大会）など町民ばかりでなく広く参加を求めて、地域を盛り上げている。

景観・写真国際フォーラム

写真家や観光客のマナーが悪かったため農業者の心証を害し、農業と観光業と折り合いが悪くなったことから、新たなルール作りに向けた「びえいルール」づくりを決定した。

具体的な内容は基調講演やパネルディスカッションの後、街なか写真展示を実施している。

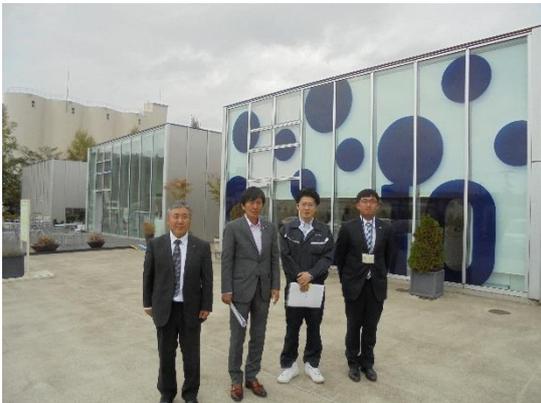
展示場所は、図書館や郷土学館、商店街ショウウィンドウなど

廃校舎の活用

美瑛町では、10校の廃校舎があり、下記の方法でどの施設も有効に活用されている。

- ・前田信三の写真家ギャラリー「拓真館」
- ・たまねぎ、ニンジンなどの食品加工場
- ・俳優、榎本孝明の水彩画美術館
- ・農産物のフリーズドライ製品などの加工食品製造施設
- ・複合的アグリビジネスを推進するための研修施設、「森と農の美田学舎」
- ・小麦を中心とした地元食材を使った料理提供など都市と農村との体験交流施設
- ・地域人材育成研修交流センター、(株)ヤフーと連携して、都市と農村との交流施設
- ・「美瑛の学び舎」滞在型旅行者の体験学習施設
- ・新規就農者農業研修施設 実践研修、園芸品目の高度栽培の推進

視察日	平成29年10月2日(月)
視察地	北海道 美瑛選果
テーマ	美瑛選果の設立経緯とJAびえいのマーケティング戦略
案内者	(株)美瑛選果 課長 神藤洋一氏



美瑛選果の施設概要

平成19年にオープンし、選果市場という直売所、選果工房という加工場、小麦工房という加工場兼販売所、「アスペルジュ」というレストランで構成されている。

総工費3億円(うち1億円が補助金)

設立の経緯

観光客は来るが、農産物の付加価値の向上につながっていないことから、観光客をテス

トマーケティングの対象として、農産物や加工品の開発並びに販路拡大の基地づくりとして事業を開始した。

事業開始にあたっては、博報堂ブランディングスクールへ職員を派遣するなど、最初に人づくりに着手し、その後、遊休地の活用など具体的な検討を進め、アグリパーク構想の具体化を図った。

現在の施設の状況

・選果市場

農産物や加工品の販売と生産情報の提供、また、試食用のオープンキッチンを備え、食べ方を提案している。同じような施設を千歳空港にも設置して販路の拡大を図っている。



・小麦工房

小麦「ゆめちから」のアンテナショップとして設置。銀座セントル・ザ・ベーカリーと提携し、その味をそのまま提供している。

・レストラン「アスペルジュ」

ミシュラン三ツ星「モリエール」の中道シェフがプロデュースしたレストランで、フランス料理を提供している。食材は美瑛産にこだわっており、20種類の野菜の前菜など美しく盛り付けられている。



・選果工房

料理人が作るオリジナル製品をテイクアウトしている。手作りのスイーツやサラダなど工夫を凝らした食品が販売されている。

・通信販売事業、

観光客を通販に誘導して、固定客を確保する戦略。ネットショップの売り上げは年々拡大している。

・有楽町アンテナショップ「丘のまち美瑛」

有楽町の交通会館に、町村では初めてのアンテナショップをオープンした。

これらにより、美瑛選果には、年間 25 万人以上が訪れている。

所感

美瑛町の観光振興は 3 段階に分かれる。第 1 期は、写真による丘のまちが知られる時代。第 2 期は、お花畑などの観光客増加時代、第 3 期は、観光客を農産物やレストラン、宿泊施設でもてなす時代である。

農作物しかなかった町が、観光地として発展してきた経過を知ることができた。

この発展の過程には、民間の活躍と町役場や J A のネットワークの綿密さを感じた。また、事業を起こすにあたっては、博報堂のブランディングスクールへ派遣するなど、人づくりを最初に行っていることが、この事業の成功に寄与していた。

那須塩原市においても、塩原板室といった観光地があり、本州日本一の酪農をはじめとして、農業の盛んなまちである。

明治時代の華族農場の別荘を中心に日本遺産登録を目指しているところであり、農業の持つ多面的機能を観光に生かしていくことが重要である。

美瑛町の取り組みを参考に、本市での「農・観・商・工」の連携を強化するとともに、温泉や食など観光地としての魅力のグレードアップに向けて調査研究を進めていきたい。

視察日	平成 2 9 年 1 0 月 3 日 (火)
視察地	北海道 札幌市
テーマ	北海道さっぽろ「食と観光」情報館・キタベル
案内者	北海道さっぽろ食と観光情報館長 野口 良二 氏



施設の概要

平成 18 年に観光客や札幌市民への観光案内及び食の魅力発信拠点として、札幌市、北

海道、JRが共同して札幌駅の構内に設置した

運営予算は8000万円、職員は約13名、面積は1165㎡、札幌市が約7割、北海道が約3割で共同運営している。

キタベルの名称は、北海道のキタと食べる、トラベルのベルを合体した造語。

北海道さっぽろ観光案内所

外国人観光客が増加していることから、英語、中国語、韓国語に対応するスタッフや観光ボランティアが常駐している。

北海道全域の1500種類のパンフレットが揃っており、地域や目的ごとに検索できるようになっている。



どさんこプラザ

北海道の2000種類の土産物の販売スペース。人気土産品のアンテナショップ。他では見られない新商品がいち早く見ることができる。

カフェ・ノルテ・サッポロ

道産食材を使った軽飲食を提供。道内各地の旬の味覚や「さっぽろスイーツ」が味わえる。

観光案内所の利用状況

入館者数は年間150万人程度で横ばい状態。観光案内所の利用者数は、20万人で増加傾向。特に、外国人の利用者数は、平成19年に2万8千人程度であったものが、平成28年には10万人を超え、急激に増加している。

外国人の利用者数は、中国、韓国、台湾の順になっている。

利用時期では、近年、冬場の利用が増加傾向。暖かな国の方々が、北海道の雪を見るツアーを選んでいるという。

所感

北海道における外国人観光客の増加を肌で感じることができた。今後の外国人観光客への対応という面で、情報館の重要性は高まっている。

本市では外国人観光客が目立たないことから、今後、外国人観光客の動向に注意し、増加するような状況になった場合は、情報館の設置の必要性が高まると考えられた。

視察日	平成29年10月4日(水)
視察地	北海道 札幌市
テーマ	札幌都心部子ども関連複合施設について
案内者	札幌市立資生館小学校 事務主任 川嶋 宗一郎氏



札幌市では、平成11年に「札幌市学校適正規模検討懇談会」を設置し、これまであった創成小、大通小、豊水小、曙小の4小学校の

統合に併せて、児童会館、保育園、子育て支援総合センターを有する札幌都心部子ども関連複合施設を平成16年に設置した。



札幌市立資生館小学校

4校が合併してできたのが資生館小学校であり、名称の資生館は、明治4年に「開拓の急務は人材の育成であり」という信念で開拓使によって設置された学問の場であった。

4校の系譜をたどると資生館になることから、これまでの歴史を尊重するとともに、初心に帰って新たな出発の思いを込めて名付けられた。

児童数 587人

学級数 25 (内、特別支援7)

職員数 42名

オープンスペースによる学習活動の多様化、思いやり精神育成教師の授業力アップ

食育の重視 ランチルームの活用、バイキング、他学年との交流給食、親子給食、試食会、ドライ方式の給食調理室、親子調理の親学校、1200食、調理スタッフ9名

室内プール25メートル4コース+幼児用屋上に教材園設置

スクールバス通学 (バス5台、停留所22、利用児童約50%)

資生館小ミニ児童会館

文部科学省と厚生労働省の連携事業 (放課後子どもプラン)

運営 公益財団法人「さっぽろ青少年女性活動協会」

職員数 8名 (館長、児童指導員、サポートスタッフ、地域サポーター)

利用料 無料 保険料1500円

利用時間 放課後から19:00

土曜日、休日 8:00~18:00

利用人数 110名/日

しんせいかん保育園

経営 社会福祉法人「救世運社会事業団」
(公設、民営)

職員数 35名 (園長、主任、保育士、事務、調理員、用務員)

保育内容 乳幼児併設、延長保育、一時保育、夜間保育、障碍児保育)

昼型保育 7:00~18:00 延長保育 ~19:00

定員 90名

夜型保育 10:00~22:00

延長保育 8:00~10:00 定員 30名

合計 120名の乳幼児併設園



子育て支援総合センター

だれもが安心して子どもを育てることができる子育て支援都市さっぽろの実現
所管 札幌市子ども未来局子育て支援部

職員数 13名（支援係長、主任2名、
保育士9名）
施設 プレイルーム、乳児室、講義室、図書、
情報コーナー、事務室
開設時間 9：00～17：00
事業 調査企画、情報提供、相談（一般、
栄養、発達）
子育て交流、子育て支援者の育成（短大、保
専の実習受入、中高生の職場体験）
利用 年間利用者数 53363名（平成28年）
所感

札幌都心部子ども関連複合施設は、子育て施設が一体化されており、各施設が相互交流、開放、環境、安全のコンセプトで設置され、本市の新たな建設の参考となった。